

平成16年度病害虫発生予察 予報第2号

平成16年5月17日
長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【気象（平成16年5月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、ぐずつく時期があるでしょう。向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は高く、2週目は平年並、3～4週目は平年並か低いでしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち） イネミズゾウムシ	並 やや少	並 並
いちご	うどんこ病 炭疽病（ 注意報第3号 ）	やや少 やや多	並 多
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	並 - - やや少 やや多	やや多 やや多 やや多 やや少 やや多
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	やや多 やや少	やや多 やや少
なし	黒星病 アブラムシ類	並 やや少	やや多 やや少
ぶどう	黒とう病	やや少	並

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多
茶	炭疽病 カンザワハダニ クワシロカイガラムシ (注 意報第2号を継続)	やや少 やや多 多	並 やや多 多
ツツジ	褐斑病 ツツジグンバイ	並 やや多	やや多 やや多

【早期水稲】 ()内は平年値 [以下同じ]

1. いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 5月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- (2) 5月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 補植用の置き苗は容易に発病し、本田での伝染源となるので早急に除去する。
 - (2) 発病を認めたら速やかに防除をおこなう。

2. イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 5月上旬の巡回調査の結果、食害株率は4.5%(6.2%)、1株当たり寄生虫数は0.00頭(0.00頭)、発生圃場数は42筆中15筆であった。
- (2) 5月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、食害株率は42.0%(37.5%)、成虫の寄生は認めなかった(1株当たり寄生虫数0.01頭)。
- (3) 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 5月上旬の巡回調査の結果、発病株率1.8%(7.9%)、発生圃場数は33筆中7筆であった。
- (2) 向こう1か月の降水量は平年より多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. 炭疽病

平成16年5月17日付、平成16年度発生予察 注意報第3号による。

【かんきつ】

1. そうか病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 5月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は0.1%(0.1%)、発生圃場数は39筆中2筆であった。

(2) 向こう1か月の降水量は、平年に比べ多い見込みで本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

春葉での発病が見られる圃場では、果実への感染を防ぐために幼果期の防除を実施する。

2. かいよう病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 5月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(平年発生を認めない)。

(2) 向こう1か月の降水量は、平年に比べ多い見込みで本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病枝や葉を除去する。

(2) 強風による傷から感染しやすいので、今後の気象状況に注意し、強風雨が合った場合は、直後に薬剤散布を行う。

3. 黒点病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

向こう1か月の降水量は平年より多い見込みで、本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布間隔は今後の降水量によって決まるので降雨状況には十分に注意する。

4. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は1.0%(3.0%)、発生圃場数は39筆中4筆であった。

5. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

5月1半旬～3半旬の黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、58頭

(21.8頭)でやや多かった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 下表の発生ピーク日を中心に薬剤散布による防除を行う。

(2) ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

(3) 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる第2世代成虫の発生予想ピーク

地区名	多良見	長与	西彼	諫早	大村	佐世保 (宮)	佐世保 (針尾)	国見	北有馬
発生ピーク	6 / 7	6 / 9	6 / 9	6 / 9	6 / 9	6 / 9	6 / 7	6 / 4	6 / 8

注1：発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。

注2：プログラムに使用する気温データには、JPPネット5kmメッシュを利用。

注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

【びわ】

1. がんしゅ病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 5月上旬の巡回調査の結果、発病枝葉率は2.6% (1.0%)、発生圃場数は10筆中7筆であった。

(2) 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みで本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布は、収穫直後早めに行う。

2. ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

フェロモントラップによる調査の結果(諫早市)、越冬世代成虫の発生量は平年並であった(4月1半旬～5月3半旬の誘殺量 本年21頭、平成6～15年の平均30.4頭)。

【なし】

1. 黒星病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 5月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は0.2% (0.4%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。

(2) 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みで本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

枝梢が遅伸びや2次伸長すると感染しやすくなるので、栽培管理を注意する。

2. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、寄生新梢率0.5% (3.1%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。

【ぶどう】

1. 黒とう病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 初発生は4月26日に県予察圃場(諫早市)において認め、発生時期は平年よりやや遅かった。
- (2) 5月上旬の巡回調査の結果、発病葉率0.0%(0.3%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。
- (3) 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みで本病の発生に好適である。

【果樹共通】

1. 果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

- フェロモントラップによる誘殺量(諫早市)は4月以降やや多く推移している(図)。

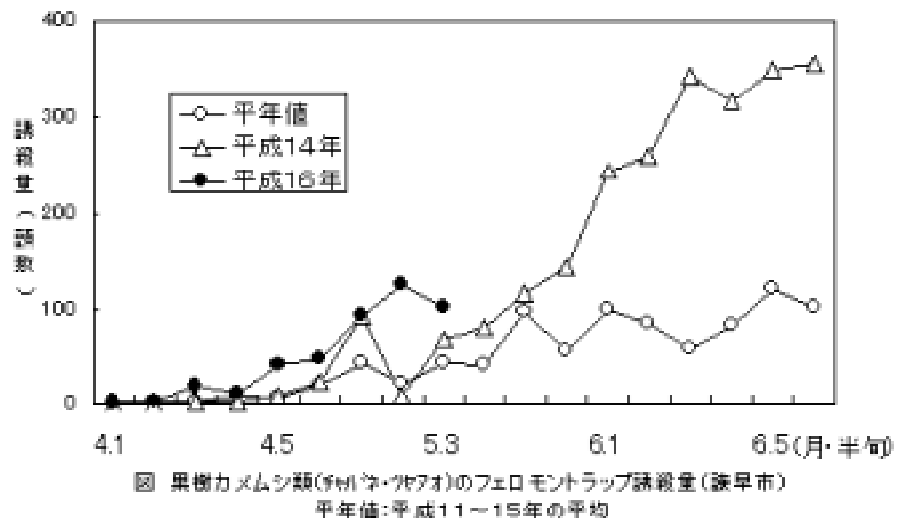


図 果樹カメムシ類(蚜類・アザド)のフェロモントラップ誘殺量(諫早市)
平年値:平成11~15年の平均

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 飛来時期や飛来量は園によって差があるので、発生状況に十分に注意し、早期発見、適期防除に努める。
- (2) カメムシ類は夜間に果樹園での密度が高まるので防除は夕方または早朝に行う。

【茶】

1. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

- (1) 5月上旬の巡回調査の結果、発病は認められなかった(0.1/m²)。
- (2) 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みで本病の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

二番茶芽に対しては、萌芽から一葉期に対して薬剤散布を行う。

2. カンザワハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は2.3% (1.5%)、発生圃場数は16筆中6筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

3. クワシロカイガラムシ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は19.6% (6.0%)、寄生圃場数は16筆中11筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

平成16年4月15日付、病虫害発生予察 注意報第2号参照。

【つつじ】

1. 褐斑病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 5月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は1.7% (2.9%)、発生圃場数は12筆中7筆であった。

(2) 向こう1か月の降水量は平年より多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. ツツジグンバイ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、10株当たり寄生虫数は0.9頭 (0.3頭)、発生圃場数は12筆中2筆で、一部多発圃場があった。